

令和8年1月8日

世田谷区立八幡山小学校
学校関係者評価委員会

世田谷区立八幡山小学校
校長 林田 孝子

令和7年度 学校自己評価報告書

1 本校の目標及び計画

◇教育目標

自分の力で考える子（自分の力で考え、正しく判断できる子どもを育てる）
心を合わせてやりぬく子（相手を尊重し、心を合わせてやりぬく子どもを育てる）
進んで体をきたえる子（進んで体をきたえ、心身ともに健康な子どもを育てる）

◇教育目標達成のための基本方針

目指す学校「安心して通える楽しい学校」
目指す児童像「かかわり合い、自ら考え、行動する子」

◇中期的な学校経営方針

- ・分かる授業、達成感のある行事
- ・組織的な学校づくり
- ・保護者、地域との連携

◇今年度の重点目標

- ◎キャリア・未来デザイン教育の実現（他者とのかかわりを通して自分らしさに気づき、夢や目標に向かって自ら努力できる子どもの育成を目指す。）
- 教育 DX の推進（タブレット端末の効果的な活用、「探究的な学び」「協働的な学び」「個別最適な学び」の実現）
- 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進（子ども同士が互いに理解し、尊重し合い、共に成長できるようにするインクルーシブ教育の推進）
- ◎地域社会と協働した教育の推進（地域社会と連携した生活科・総合的な学習の時間、地域社会への帰属意識を高める）
- ◎「学校における働き方改革」の推進（教科担任制導入に向けた交換授業、創造的余白の時間の創出、ペーパーレスによる資源と時間の削減）
- 校内研究（架け橋期における就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続）

2 学校の概要

◇校長 林田 孝子

◇学級数 19学級

◇児童数 561名（令和8年1月8日現在）

◇学校の特徴

令和6・7年度 世田谷区教育委員会「園・校における架け橋期の教育の充実」モデル研究「子供同士

の関わりの中で生き生きとできる子ども—環境構成を備えた授業づくりを通して—

学び舎の幼稚園・保育園との交流、あいさつキャンペーン、なかよし学級（縦割り班活動）、金スポ、保護者・地域と協働した教育の推進（読み聞かせ、おやじの会、八幡山囃子特別授業）、警察との連携（交通安全教室）

◇ホームページアドレス <https://school.setagaya.ed.jp/hama>

3 全方位的な点検・評価（自己評価） ●反省・意見（→改善策）

（1）重点目標への取組の評価

教育目標・重点目標の達成に向けた学級や各教科での取組についての自己評価→特になし。

（2）地域との連携・協働による教育の評価

保護者地域連携・地域運営学校・学校支援地域本部・学校協議会・PTA 活動・家庭教育学級についての自己評価

●学校公開の日程・時間割について→令和8年度は公開の曜日を分散させる。学校公開中に全校朝会がある場合、公開を2校時からにする。

（3）「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育活動の推進の評価

教育課程・教育目標等・学習指導・教科日本語・生活総合・生活指導・道徳教育・特別活動・学校行事・体育・健康教育・食育・キャリア教育・進路指導・「キャリア・未来デザイン教育」・特色ある教育・特別支援教育・幼保小の連携についての自己評価

●2学期が忙しい。→令和8年度は、展覧会を3学期にする。

●探検ボードが古くて使いにくい。→来年度の1、2年生から個人持ちにする。

●なかよし班、児童集会について→暑い時期の外での活動は厳しい。時期を意識した計画をする。

●委員会やクラブ担当者の割り振りに偏りがある。→経験年数、学年、前年度の担当、異動者等を踏まえ、年度始めに部会で話し合っ決めて決める。

（4）信頼と誇りのもてる学校づくりの評価

学校経営・学校運営・「学び舎」による学校運営・学校評価・教職員・研究・研修・保健管理・衛生管理・安全管理・広報活動・情報提供・出納・経理・文書・情報管理についての自己評価

●担当する分掌の重さに偏りがある人がいる。→引継ぎの関係もあるが、調整するようにする。

●配布物が多い。配布に時間がかかる。→随時減らしている。さらにペーパーレスをすすめる。

●校務パソコン内の整理が必要。→年度末に実施をする。

（5）安心安全と学びを充実する教育環境の整備の評価

施設・設備に関する自己評価

●石灰倉庫、体育倉庫の扉、教室のカーテンレール、新教室フロアの放送音量→修理、調整依頼をする。